3　街道のいまむかし【3】　～ 成田街道・房総往還 ～

成田街道

「成田街道」は、千葉街道から船橋で別れ、大和田、臼井と続く現在の国道296号沿いであり、臼井からは、印旛沼を左に見て旧佐倉藩の城下町桜を歩き、今も旧成田街道の面影を残す酒々井を抜ければ成田に入ります。多くの参拝者を集めた成田山への道は今に続く信仰の道であり、国道51号がその道にあたります。

現在の習志野台一帯はかつて、小金原もしくは大和田原といわれ、江戸時代には幕府の牧場の一部であり、明治初期から昭和20年までは、陸軍の演習場でした。

明治6年（1873年）4月29日、明治天皇は、西郷隆盛、篠原国幹ほか多数を従え、成田街道大和田宿に行幸され、30日には、近衛兵による天覧演習が行われました。

5月13日、天皇より勅諭をもって、この原に「習志野ノ原」の名を賜りました。これよりのち、この周辺の地名に「習志野」の名が用いられるようになりました。

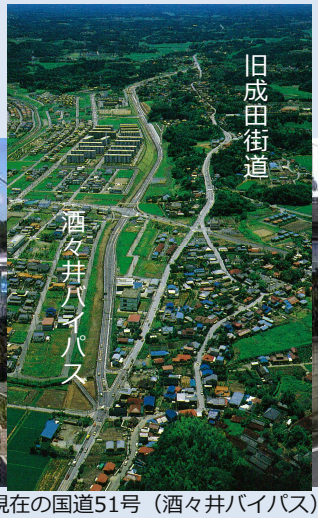
碑は後に明治天皇の幕舎跡（現在の習志野台4丁目のみゆき町会館付近）に建てられましたが、現在は船橋市郷土資料館敷地内に移転されています。

（船橋市HPより引用）

ちゅうひつのところのひ
明治天皇駐蹕之処の碑
（船橋市習志野台）
提供：船橋市教育委員会

成田街道略図
出典：千葉国道30年の軌跡

酒々井バイパス
（酒々井駅付近）



現在の国道51号（酒々井バイパス）
出典：千葉国道30年の軌跡

旧成田街道の面影を残す酒々井町
提供：千葉国道30年の軌跡

房総往還

木更津市から館山市に南下する現在の国道127号は、江戸時代には「房総往還」と呼ばれ、幕末には海防の台場が築かれました。

また、戦前は、木更津や館山などの航空隊に至る道であったため、昭和18年には、軍事国道「特37号国道」として整備が進められましたが、戦争により中断。戦後、再び工事を再開し、狭隘な幅員を広げ、トンネルを新しく建設し、現在の姿となりました。

この道路は、江戸時代の房総往還であり、明治になってトンネルが掘られ、車馬の通行が可能となりましたが、断崖が海に迫り、明治の『君津郡誌』にも「上総湊より安房保田に至る間は、鋸山盤踞（ばんきょ）し、道路険悪交通難険（けんあくこうつうなんけん）を極む。」と記されています。断崖が海に迫るこの場所は「関東の親知らず」とも呼ばれていました。

やがて、明治21年（1889年）、最大の難所であった明鐘（みょうがね）にもトンネルが完成し、同22年（1890年）に明治の文豪・夏目漱石が訪れ、当時の明鐘トンネルを含む隧道（すいどう）を歩き、漢詩『木屑録（ぼくせつろく）』を残しています。漱石が通ったと思われるトンネルの一つが、今も元名第二トンネルの近くに残されています。

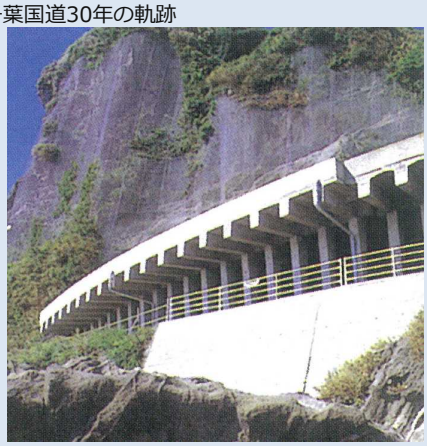
（「関東の道」より引用）

房総往還略図
出典：千葉国道30年の軌跡

夏目漱石は23歳の夏を
房総で過ごした

当時の明鐘トンネル

元名第二トンネル（当時の明鐘トンネル付近）



一般国道127号で築かれるトンネルは景観への
配慮と安全が考えられています。
出典：千葉の道千年物語